



2017年度 福島大学
子どものメンタルヘルス支援事業推進室
活動報告書



2017年度 福島大学 子どものメンタルヘルス 支援事業推進室

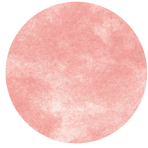
—活動報告書—

CONTENTS

目次

福島大学子どものメンタルヘルス 支援事業推進室について	3
スタッフ紹介	4
1. 学校支援	5
1-1 心の教育プログラム(こころの授業)	5
1-2 巡回相談	16
2. 地域支援	17
2-1 ペアレント・プログラム	17
2-2 アルコールプロジェクト	18
2-3 巡回相談事業	19
南相馬市	19
白河市	19
会津若松市	19
2-4 地域ミーティング	19
3. 医療支援	21
3-1 子どものメンタルヘルス支援事業推進室外来	21
3-2 南相馬市個別相談事業	21

4. 支援者養成	23
4-1 子どものメンタルヘルス支援の実践	23
家族への地域生活支援:非行臨床を中心に	26
子どもの心理教育	27
震災後の福島の子どもの理解と支援:自閉症スペクトラムを中心に	28
不登校・ひきこもりの理解と支援	29
被災・事故等によるトラウマ反応や喪失体験の理解と支援	30
青少年のいじめ・自殺の現状と予防	31
子育てに悩む保護者支援:ペアレント・プログラム	32
4-2 学外講師招聘研修会	33
外傷的育ちによる生きづらさへの理解と支援	33
自閉スペクトラム症を持つ児童思春期の子どものためのスキーマ療法ワークショップ	34
子どもとその家族のレジリエンスを高めるBASIC-Ph	37
LEGO® SERIOUS PLAY®メソッドを用いて「関わり手が大切にしていること・価値観」から 児童や学生達のメンタルヘルス支援を考える	40
4-3 地域研修会	43
相馬支援学校特別支援教育セミナー ゲートキーパー研修会	43
南相馬市職場内研修会 心の悩みや不安を抱えている方への対応	44
指導員研修会 子どものアセスメント	45
相馬支援学校 親子学級講演 ペアレントプログラム	46
保育士部会学習会	47
発達心理研修会	47
5. 調査研究活動	48
5-1 東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究	48
5-2 福島におけるペアレント・プログラムの実践	49
5-3 児童思春期の高機能自閉スペクトラム症者および家族に対する認知行動療法を用いた 心理教育プログラム「ASDに気づいてケアするプログラム (Aware and Care for my AS Traits;ACAT)」の開発と効果についての検証	50
5-4 学校における発達の偏りや遅れのある子どもに関する調査	53
5-5 福島県における震災後の発達障害の子どもの支援に関する研究	53
5-6 原発事故による帰還地域の現状をふまえた自殺予防教育の教材開発	53
5-7 ワシントンDCおよびボストン市における、被災者支援の一環としてのハイリスクな 青少年の立ち直り支援に関する実地調査	54
5-8 研究業績	55



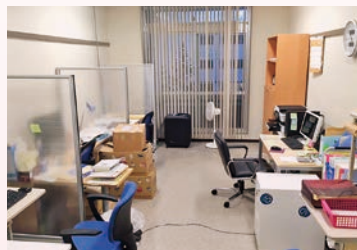
福島大学子どものメンタルヘルス 支援事業推進室について

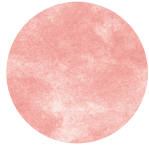


福島の子ども達のメンタルヘルスを取り巻く状況は、平成23年の東日本大震災より数年が経過した現在でも楽観が出来ない状況が続いています。客観的指標としても不登校や自殺の増加、就学前幼児の問題行動の増加等が指摘されています。殊更に危機を煽ることは厳に慎まねばなりません、楽観が過ぎることも慎まねばなりません。

子ども達は成人と比して、抱えるストレスや悩みを直接的に表現・発散する力が不足しているため、周囲に気付かれにくいようなシグナルしか出さないこともあります。また家族や周囲に「心配をかけまい」、「頑張っているところを見せたい」との思いから頑張りすぎてしまう(過剰適応)こともあります。発達障害などを抱えて、困難状況に適応できないケースも多く認められています。

福島県においては、こういったメンタルヘルス支援を要する子ども達が周囲に気付かれず、十分に支援につながっていないことも多い状況がいまだに存在しています。そして県内では子どもの心のケアを十分に行える資源はまだ不足しています。このような現状から福島大学では子どものメンタルヘルス支援事業を行うことを決め、平成26年4月に当室が開設されました。現在、県内全域において支援事業を展開しています。本学を中心に浜松医科大学・弘前大学の三大学合同で児童精神科医師・臨床心理士のチームを作り、「学校支援」、「家族支援」、「医療支援」、「支援者養成」の四つの事業を支援の柱として活動しています。これらの活動は当然のことながら、国や県のみならず地域の様々な機関や施設の皆様の御支援や御協力をいただかねば成り立ちません。今後とも御支援や御協力を心からお願いいたたく考えております。





スタッフ紹介

学内スタッフ

室 長／中田スウラ (理事・副学長、兼任)

副室長／生島 浩 (人間発達文化学類 教授、臨床心理士、兼任)

スタッフ

内田千代子 (人間発達文化学類 教授、精神科医師、兼任)

高橋 紀子 (当推進室 特任准教授、臨床心理士、専任)

佐藤 則行 (当推進室 特任助教、臨床心理士、専任)

中村志寿佳 (当推進室 特任助教、臨床心理士、専任)

川島 慶子 (当推進室 研究員、臨床発達心理士)

客員教授

内山登紀夫 (大正大学 教授、児童精神科医師)

黒田 美保 (広島修道大学 教授、臨床心理士)

柘屋 二郎 (東京医科大学 准教授、児童精神科医師)

客員研究員

野村 昂樹 (医療社団法人木野記念会福田西病院心理士、臨床心理士)

学外協力スタッフ

本学の他、弘前大学からも児童精神科医師、臨床心理士が参加し、合同支援チームを編成して、子どものメンタルヘルス支援事業を展開しています。



1 学校支援

1-1 ● 心の教育プログラム(こころの授業)

当推進室では、福島県内の学校に通う子どもたちを対象に「心の教育プログラム」(以下、こころの授業)を実施しています。こころの授業は、東日本大震災後に浜松医科大学を中心に実施された内容を当推進室が引き継ぐかたちで、弘前大学の協力を受けながら福島県内の各学校で行なっている心理教育プログラムです。このプログラムは、子どもたちの「心の回復力・生活の中の対処能力を向上させ、安定を図る」ことを目的とします。

具体的には、子ども達が自分のよいところに目を向ける(自己肯定感の向上)、感情のコントロール(気持ちの切り替え方)、アサーション(気持ちの伝え方)などを学習します。Unit 1～3まであります。当推進室では、各学校の担当の先生と実際の授業内容や展開について打ち合わせを行ない、子どもの年齢や発達状況に合わせて授業を実施します。

2017年度の活動 ●●

福島県内の小学校、中学校、高校でこころの授業を行なうと共に、下記3つについて取り組みました。

- ① これまでの実践を踏まえ、Unitごとの授業配布プリントをリニューアルしました。
- ② 「感想アンケート」を実施しました。
- ③ 教材ツールの作成をしました。
- ④ Unitごとの目的と授業の流れについての説明文を作り直しました。
- ⑤ 申し込みの仕方から当日の流れまでを案内するリーフレットを作成しました。

2018年度の取り組み ●●

- ① 推進室サイトに、こころの授業のページを開設します。サイト上から、こころの授業の配布プリントおよびリーフレットをダウンロードできるようにします。
- ② 感想アンケートの分析を行ない、こころの授業が児童・生徒からどのように捉えられているのか検討します。

心の教育プログラム(こころの授業)のUnitごとの目的と授業の流れ ●●

Unit 1 自己肯定感を高める

Unit 1の目的は、自分ができていることを見直し自己肯定感を高めること、自身で取り組める気持ちの切り替え方を知ることの2つです。そこで、授業では次の内容を行なっています。

まずは、自分の「いいところを見つける」ワークです。ここでは、自身の性格としての長所を見つけるのではなく、普段の生活を続け、社会適応するために行っている適応行動に注目します。例えば、体調管理の行動やコミュニケーション、学校のスケジュールに参加することなどが挙げられます。自分が普段いかに多くの適応行動を行なっているかを確認することで、「いいところ」は人と比べる必要がなく、特別なものでなくてよいこと、問題が生じないために普段当たり

前に取れている行動が大切であることを理解し、肯定的なイメージが持てるような気づきを促します。また、グループワークを通して、自身のいいところを他者に認めてもらう体験ができる機会としても重要です。

2つ目は、「大切な気持ちをみつける」ワークです。楽しいなどの肯定的な気持ちに繋がる「もの」や「出来事」を思い出し、書き出す作業を行ないます。作業を通して、ポジティブな気持ちに繋がることを考えたり、実践することが気分転換になることを体験的に理解します。また、偏った興味だけでなく、グループの意見を参考に幅広く見つける練習をすることで、自分なりの気分転換の手立てを増やすことにも繋がります。

最後に子ども自身で行える呼吸法や筋弛緩法などを実践し、リラクゼーション法を練習します。

Unit 2 感情のコントロールとアサーション

Unit 2の目的は、自分と他者との違いや自分の抱いている感情に気づき、自他を大切にしたい考え方や表現方法を身に付けることです。

アサーションという話し方について意識しがちですが、我々の行なう授業では、まずは自他の違いに目を向けることから始めます。怒りや悲しみを感じやすい場面をいくつか提示し、皆はどのくらい怒りや悲しみを感じるか、その強さを点数にします。同じ場面でも人によって点数の違いがあると確認することで、自分と他者とは違って当然であること、人と同じでなくてはいけないという思い込みを捨て、それぞれの気持ちや考えを尊重できるようになる(考え方をアサーティブにする)ことを狙います。

次に、互いを理解し合うためのコミュニケーションとして、自己表現には3つのタイプ(①攻撃的、②非主張的、③アサーティブ)があり、それぞれどのような特徴があるかを紹介します。その後、こちらが設定した場面でどのような伝え方をしたらアサーティブな表現になるかを考えてもらい、セリフとして文字にします。隣同士やグループに分かれて、自分が考えたセリフを声に出し、相手はどのように感じるかを確認するロールプレイも実施することで、知識としてだけでなく、実際に使えるスキルとして身に付くことを目標にしています。

授業の最後には、状況に応じて言わない権利があることを補足します。また、強い怒りを感じている場合には、言葉にするよりも先に自分の中で怒りを小さくおさめられると良いこと、そのための感情コントロール法を練習します(アンガーマネジメント)。

Unit 3 考えの幅を広げる

Unit 3の目的は、気持ちの切り替えの方法として「考え」に注目し、考えの幅を広げることにより、ストレス軽減につながる方法を知ることです。授業では、コミュニケーション上の葛藤が起きやすい場面を例に挙げ、同じ状況でも考え方によって気分が良い方にも悪い方にも変化することを理解します。また、特にストレスを引き起こしやすい考え方のクセを知るために、チェックリストを使い自身の考え方の傾向をグラフ化し、客観的に捉えるワークを行ないます。その後のグループワークでは、事例を基に、普段の考え以外に様々な考え方を出す練習を行ないます。他者の意見を聞くことで、より幅広い考え方を知る機会になります。

このワークを通して、特にストレスのかかる状況下では、クセにより偏った考えが浮かびやすいこと、それにより調子が悪くなるという悪循環に陥りやすいことを知り、考えに幅を持たせることがストレス軽減に繋がることを理解します。これまでの授業で行なった気分転換の行動やリラクゼーション法などと併せて実施することで、子ども自身のストレス軽減に繋がっていくと考えられます。

こころの授業 — 大切なこと

1. 自分の“いいところ”をみつける！

“いいところ”とは、いまの生活せいかつのなかで“できている”ことや、したほうがいいことことのなかで、“できている”ことです。

たとえば

朝ごはんを食べてきた しゅくだいをやってきた 友だちにあいさつをした

みんなは、たくさんの“いいところ”があります。

いまから、3つ、あるいは、もっとたくさん、“いいところ”をみつけてみよう！



①

②

③

ほかにもあれば、ここに書いてみよう！

- _____
- _____
- _____

2. 大切な気持ちを みつける！

うれしいこと、楽しいこと、好きなことは「大切な気持ち」です。
自分が大切な気持ちになれる“モノ”や“できごと”を見つけてみましょう。

たとえば



うれしい！ ⇒ 「ありがとう」とともだちに言われた

楽しい！ ⇒ ともだちと話しているとき

好き！ ⇒ マンガをよむ・りょうりをする・サッカーをする



自分のことを書いてみよう

うれしい	
楽しい	
好き	

<気分をかえるコツ>

テレビの“チャンネルをかえる”ように、かなしい、さびしい、イライラのチャンネルから「大切な気持ち」チャンネルにしよう



きぶん らく ちょうし ほうほう
3. 気分を楽にして、調子をよくする方法

気分を楽にする術 じゅつ をおぼえる。

- (1) せんせい かぞく 先生や家族にそうだんする
- (2) ちから いき 力をぬいて、息をはく (リラックス)

<リラックスの方法>

しんこきゅう
深呼吸



おなかに手をあてる



はなから いき を すう
(3つ かぞえる長さ)

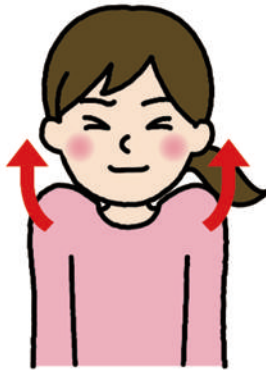


口からフーッとながく いき をはく
(6つ かぞえる長さ)

からだ ちから
体の力をぬく



せすじをのばし、
楽なしせいですわる



耳にくっつくように
かたを上げる

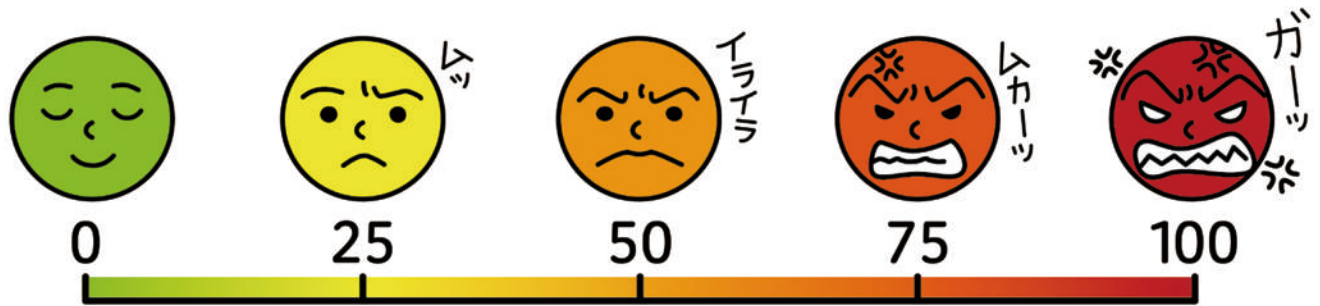


すとーんとかたを
落としながらいきをはく

こころの授業ワークシート①

いか きも すうじ
怒りの気持ちを数字にしよう！

(質問) つぎのようなとき、あなたの怒り・イライラはどれくらいですか？



- ① 友達にかした本がよごれて返ってきた。
- ② 友達に声をかけたのに気づいてもらえなかった。
- ③ テストの点数がわるくて友達に笑われた。
- ④ そうじの時間に他のメンバーがまじめにやらない。
- ⑤ 授業中にまわりがうるさくて、集中できない。
- ⑥ 授業でいっしょに使う道具をひとりじめされ、作業ができない。
- ⑦ あそぶ約束をしていたのに、あとでことわられた。
- ⑧ 何人かで話していたのに、自分だけ注意された。
- ⑨ 親に「勉強しなさい！」としつこく言われた。
- ⑩ 自分のお気に入りのものを捨てられた。

こころの授業ワークシート②

き も つた かた し
 気持ちの伝え方を知ろう！

ともだち せんせい かぞく かんけい じぶん き も かんが しょうず つた
 友達や先生、家族とよい関係をつくるためには、自分の気持ちや考えを上手に伝えるこ
 とが大切です。上手な話し方を考えていきましょう！

3つの言い方



強い言い方

相手のことは考えず、
 自分の考えを押し付ける言い方



弱い言い方

自分の気持ちをおさえて、
 相手の考えにしたがう言い方



ちょうどよい言い方

自分のことも、相手のことも、
 考える言い方

場面①

Aさんは、自分の机の横にカバンを置いていました。

そこを急いで通ったBさんがカバンにつまずき、カバンをふみつけてしまいました。



Aさん

おい、俺のカバンをふむなよ！



Bさん



「おまえの置き場所が悪いんだ。ちゃんと片づけるよ！」



「ごめん、ふんじゃって。僕が悪かったよ。」



「カバンをふんだのは悪かったよ。でも、ここに置くと危ないから、
 ちゃんとロッカーに置いてもらえる？」

こころの授業ワークシート③

★つぎの言い方は、どのタイプでしょうか？

● 友達にかした本がよごれて返ってきた。

[] 「ばか、もうお前にはかさないよ！」

[] 「返してくれてありがとう。よごれてたから、次はていねいに読んでね。」

[] 「あ……。ありがとう。」



● 授業中にまわりがうるさくて、集中できない。

[] 「聞こえないけど、がまんしよう。」

[] 「うるさいなあ！ ちょっとだまれよ！」

[] 「ちょっと悪いんだけど、集中したいから静かにしてもらえる？」



● あそぶ約束をしていたのに、あとでことわられた。

[] 「楽しみにしてたのに残念だな。今度またあそぼうね。」

[] 「うん、分かった。いいよ。」

[] 「約束したのに。うそつき！」



★つぎの場面について、上手な話し方を考えてみよう。

場面： 授業でいっしょに使う道具をひとりじめされ、作業ができない。

[]

あいて
相手と うまく やりとりをするために

<その1> きも お
気持ちを 落ちつけよう

いや きも つよ あいて
嫌な気持ちが強いと、相手に うまく つたえられません。

まずは、自分のきもちを 落ちつけましょう。

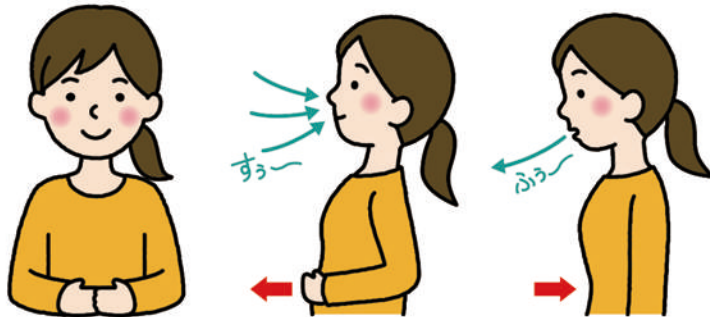
●「楽しいこと」・「うれしいこと」・「好きなこと」をやってみる。

●イライラしたときにできるとよいこと

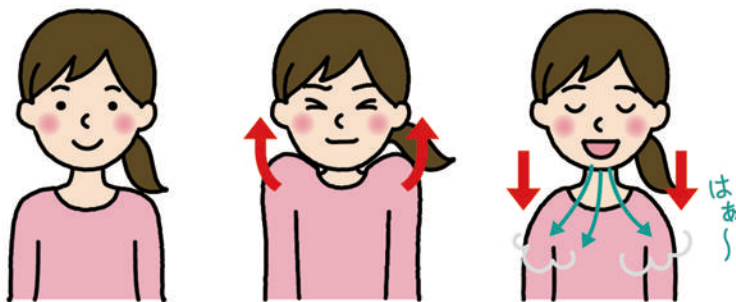
「6まで かぞえる」, 「べつの場所で 休む」, 「心のなかで 歌をうたう」

<その2> リラックスしよう

●リラックスできる 深呼吸



●からだの きんちょうを ほぐす



あいて
<その3> 相手にきもちをつたえよう

●自分が 嫌な気持ちのとき、言わないと 相手は 気づいてくれません。

こえ ひょうじょう を やさしくすると、相手も いい気持ちになります。

●嫌な気持ちが 続くときは、ほかの人に 相談しましょう。

どの考えに近い？

<場面>

LINE(ライン)のやりとりをしていた友達から、既読しているのに急に返事が来なくなった。

() Aさん : 「このまま返信が来なくて、もう個人的なやりとりができずに離れてしまうかも」

() Bさん : 「メッセージを見たのなら、まずは返信をするべきなのに、何をしてるんだ！」

() Cさん : 「いつも私のことは後回しにされている気がする…。あまり気にかけてくれてないんだ」

() Dさん : 「私がやりとりの中で怒らせてしまったのかもしれない」

() Eさん : 「今は忙しいのかな？もう少し待ってみよう」

★ 自分はどの考えに近いですか？

★ () の中に当てはまる数字を選んでみましょう。

①怒り ②悲しみ ③不安 ④穏やか

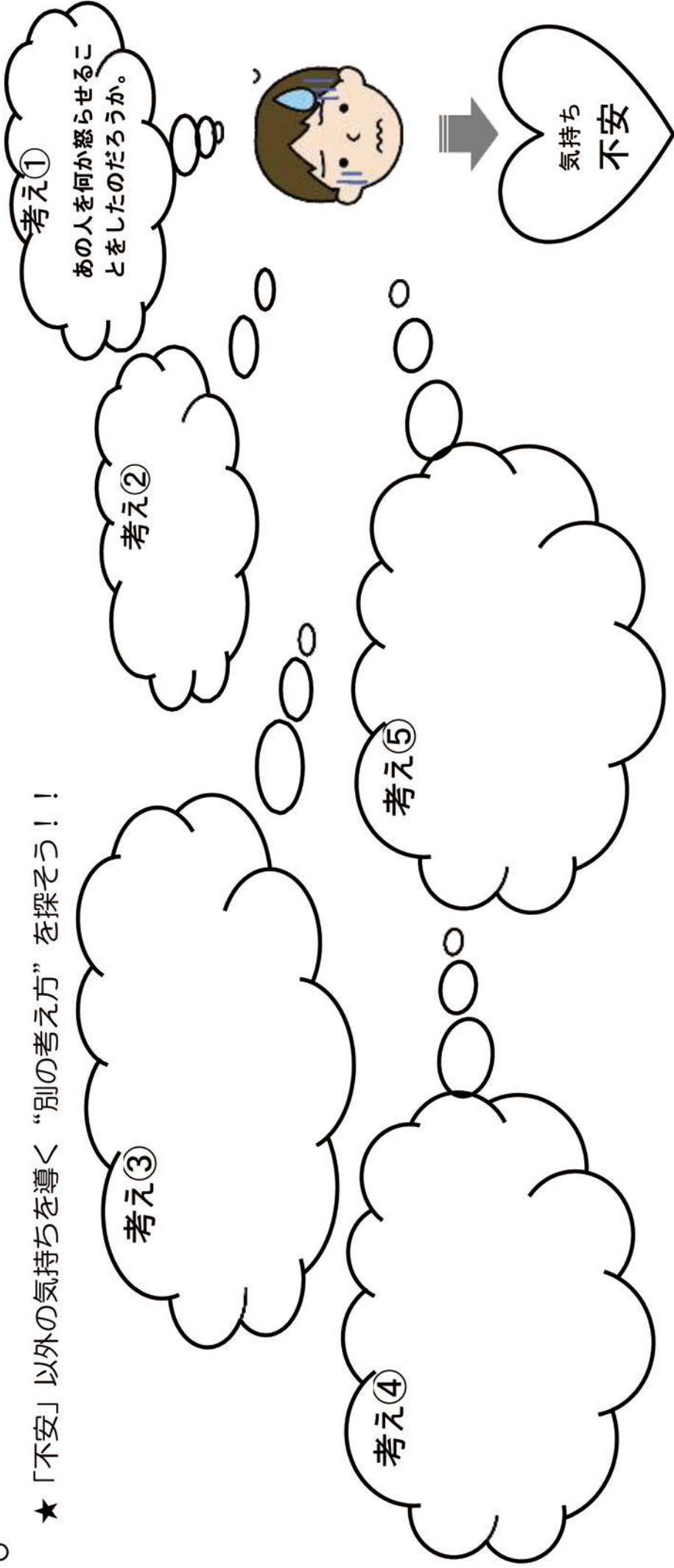
同じ状況でも、どう考えるかによって気持ちは変化します。
考え方のクセがストレスに影響しているかもしれません。



できごと

週末に友達と遊ぶ約束をしていたが、「ごめん、行けなくなった」とキャンセルされた。

★「不安」以外の気持ちを導く“別の考え方”を探そう！！



このグループのまとめ

<書き方の例>

他の考え方をすると、
気持ちは不安から〇〇に変えられる

学校支援

1-2 ● 巡回相談

福島県内の学校(幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校)を対象に実施しております。教育委員会を通じて依頼を受け、学校や地域に出向き、教職員の皆様とのケース検討の他、必要に応じて本人面談、保護者面談を行ないます。

申し込み方法 ●●

原則、年度初めの募集案内期間に申し込みを行ないます。その後は随時申し込み可能です。申し込み後、福島大学より要請のあった学校へ日程調整の連絡を改めて行ないます。

活動の流れ ●●

基本的に、① 対象児童・生徒の情報聴取→② 授業観察→③ コンサルテーションの流れで行ないます。

2017年度の活動 ●●

- ①巡回相談の記録項目を再検討しました。
- ②推進室でのデータベースの管理環境を整えました。

2018年度取り組み ●●

- ①巡回相談の実践の分析を行ないます。
- ②児童精神科医との連携の流れを整えます。

2 地域支援

2-1 ●ペアレント・プログラム

ペアレント・プログラムとは、心理などの専門家が少ない地域でも、子育てに悩む保護者が何らかの支援を受けられるようにという目的で中京大学の辻井正次先生を中心に開発がなされた、保護者を対象としたグループ療法で、当推進室では福島県内の複数地域で実施しています。子どもの見方が変わることによって、子育てをポジティブに行なうことが出来るようにと意図されたプログラムです。

よく「子どもは、叱って修正するのではなく、ほめて育てましょう」と言われますが、ほめるポイントを見つけられなければほめることは出来ません。ほめるポイントをグループで学びながらグループ内の繋がりも大切にして保護者を地域で支えることを目指します。保護者支援と共に地域の支援者のスキルアップも狙っており、将来的に地域の支援者が自主的に地域で本プログラムを継続できるように養成も同時並行して行なっています。

助言者として ●●

南相馬市 高橋 紀子・佐藤 則行

講師として ●●

オハナ・おうえんじゃー 本 宮 高橋 紀子・川島 慶子
のびっこらんどキララ..... 相 馬 高橋 紀子
どんぐりハウス・くるみ 郡 山 佐藤 則行
かわらご園..... 会 津 佐藤 則行
伊達市福祉協議会..... 伊 達 中村志寿佳・佐藤 則行
社会福祉法人南陽会..... 南会津 中村志寿佳
夢あるき..... 会 津 中村志寿佳
いわき福音協会..... いわき 中村志寿佳
児童発達支援センターまきびと..... 西白河 川島 慶子
放課後等デイサービスむすび..... 福 島 高橋 紀子



地域支援

2-2 ● ふくしま心のケアセンター地域アルコール対応力強化事業 (アルコールプロジェクト)

相双地域におけるモデル事業 ●●

本事業は、平成26年度より実施されている「ふくしま心のケアセンター 地域アルコール対応力強化事業」の一環として、相双地域において展開しているモデル事業です。

なお、NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会 相馬広域こころのケアセンターなごみ(以下、「なごみ」とする)は、福島県精神保健福祉協会より、ふくしま心のケアセンター相馬方部センターの業務委託を受けており、本事業を実施しています。

会議

- 2017年4月19日 高橋紀子
- 2017年5月17日 高橋紀子
- 2017年6月20日 高橋紀子
- 2017年7月19日 高橋紀子
- 2017年9月6日 高橋紀子
- 2017年10月18日 高橋紀子

活動

2017年10月26日、東京の駒木野病院アルコール総合医療センターの田 亮介先生を講師にお招きして、雲雀ヶ丘病院にて、「これからのアルコール依存症治療のあり方」と題して勉強会が実施されました。

運営スタッフのひとりとして当推進室の高橋紀子が入りました。

この他、アルコールプロジェクトでは様々な活動を行なっています。詳しくは、「ふくしま心のケアセンター地域アルコール対応力強化事業(アルコールプロジェクト)相双地域におけるモデル事業活動報告書」をご覧ください。



地域支援

2-3 ● 巡回相談事業

市の巡回相談事業等に臨床心理士スタッフが入りました ●●

1. 南相馬市

2017年9月8日 中村志寿佳

2017年10月27日 佐藤 則行

2. 白河市

2017年7月3日 中村志寿佳

2017年9月21日 中村志寿佳

2017年10月11日 中村志寿佳

3. 会津若松市 川島慶子

グループワークはまっ子くらぶ（避難中の発達障害児の保護者の方向けの茶話会&個別相談）

会津若松市／2017年6月27日 2017年9月28日 2018年3月24日

個別支援 ●●

はまっ子くらぶ 子育て相談（避難中の発達障害児の保護者の方の個別面接）@会津若松市

会津若松市／2017年4月26日 2017年5月23日 2017年9月13日 2017年10月25日

巡回相談会：はまっ子クラブ主催 保育所・幼稚園等

会津若松市内の保育所・幼稚園等に通う子供の発達相談：園・保護者向け。併せて避難中の発達に偏りのある子どもの発見・支援も目的とします。

2017年6月28日 2017年8月23日 2017年11月22日 2018年2月28日

2-4 ● 地域ミーティング

相双地区の子どもに関わる支援者が、月1回集まって情報交換しています。

- ・場 所／ゆうゆうクラブ
- ・出席回／2017年6月15日 高橋紀子
2017年7月13日 高橋紀子
2017年10月19日 高橋紀子

3

医療支援

3-1 ● 福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室外来

相馬地方市町村会より要望をいただき、特に児童精神科医療資源が豊富と言えない地域(相馬市、南相馬市)の地域医療機関内に「福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室外来」を開設し、地域の児童精神科医療に寄与しています。

3-2 ● 南相馬市 個別相談事業

精神科医と心理士がペアとなり、個別の問診及び発達検査等を行い、支援の必要な児童に対する支援および保護者への助言を行ないます。

- 場 所／原町保健センター
- 実施日／2017年 7月12日 内山登紀夫・川島 慶子
2017年 9月28日 榊屋 二郎・佐藤 則行
2017年11月14日 内山登紀夫・川島 慶子
2017年12月14日 榊屋 二郎・中村志寿佳
2018年 3月 8日 榊屋 二郎・中村志寿佳

4

支援者養成

2017年度は支援者養成として、下記の研修会を企画運営しました。

研修会「子どものメンタルヘルス支援の実践」の概要は、冊子『福島の子どものメンタルヘルスガイドブック』にまとめました。

4-1 ● 子どものメンタルヘルス支援の実践

- 家族への地域生活支援：非行臨床を中心に
- 子どもの心理教育
- 震災後の福島の子どもの理解と支援：自閉症スペクトラムを中心に
- 不登校・ひきこもりの理解と支援
- 被災・事故等によるトラウマ反応や喪失体験の理解と支援
- 青少年のいじめ・自殺の現状と予防
- 子育てに悩む保護者支援：ペアレント・プログラム

4-2 ● 学外講師招聘研修会

- 外傷的育ちによる生きづらさへの理解と支援
- 自閉スペクトラム症を持つ児童思春期の子どものためのスキーマ療法ワークショップ
- 子どもとその家族のレジリエンスを高めるBASIC-Ph
- LEGO® SERIOUS PLAY®メソッドを用いて「関わり手が大切にしていること・価値観」から児童や学生達のメンタルヘルス支援を考える

4-3 ● 地域研修会

- 相馬支援学校特別支援教育セミナー ゲートキーパー研修会
- 南相馬市職場内研修会 心の悩みや不安を抱えている方への対応
- 指導員研修会 子どものアセスメント
- 相馬支援学校 親子学級講演 子育て支援
- 保育士部会学習会
- 発達心理研修会

推進室 FAX 024-503-3414

「子どものメンタルヘルス支援の実践」研修会 参加申込書

ふりがな	
お名前	所 属
電話番号	職 業
メールアドレス	
住 所	(〒 -)

参加希望日に、を入れてください。 可能お限り毎回ご参加くださいとお願いたします。

<input type="checkbox"/>	2017年 7月1日	9:30~12:30	家族への地域生活支援～非行臨床を中心に～ 講 師: 生島 浩
<input type="checkbox"/>	2017年 8月26日	9:30~12:30	子どもの心理教育 講 師: 中村 志寿佳・佐藤 則行
<input type="checkbox"/>	2017年 9月29日	10:00~13:00	震災後の福島の子どもの理解と支援～自閉症スペクトラムを中心に～ 講 師: 内山 登紀夫・川島 慶子
<input type="checkbox"/>	2017年 10月21日	9:30~12:30	不登校・ひきこもりの理解と支援 講 師: 榎屋 二郎・野村 昂樹
<input type="checkbox"/>	2017年 12月16日	9:30~12:30	被災・事故等によるトラウマ反応や喪失体験の理解と支援 講 師: 高橋 紀子
<input type="checkbox"/>	2018年 1月26日	9:30~12:30	青少年のいじめ・自殺の現状と予防 講 師: 内田 千代子
<input type="checkbox"/>	2018年 2月17日	9:30~12:30	子育てに悩む保護者支援:ペアレントプログラム 講 師: 黒田 美保

お問い合わせ/福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室 kodomo.mental.12@gmail.com

子どものメンタルヘルス 支援の実践 全7回

福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室では、福島県等との連携により、東日本大震災と原発事故後のメンタル面で特別なリスクを抱える子どもたちと家庭を対象に専門的な支援を行ってきましたが、支援者や支援活動をコーディネートする能力を持つ人材の育成を行うことが、本研修の目的です。

受講者が、自ら地域生活支援のフロント機能を果たすとともに、アセスメントによって、医療・福祉・心理等の専門機関に的確につないでいけるよう精選した内容となっています。

ハイリスクの子どもの支援に必要な研究・調査を行い、震災が子どものメンタルヘルスに与えた影響を検討し、ハイリスクの子どもと家庭の支援ガイドラインとしても使えるテキストを研修に伴って編纂したいと計画しています。

研修会日時とテーマ

- 2017年 7月1日 9:30~12:30 家族への地域生活支援～非行臨床を中心に～ 講師: 生島 浩
- 2017年 8月26日 9:30~12:30 子どもの心理教育 講師: 中村 志寿佳 講師: 佐藤 則行
- 2017年 9月29日 10:00~13:00 震災後の福島の子どもの理解と支援～自閉症スペクトラムを中心に～ 講師: 内山 登紀夫 講師: 川島 慶子
- 2017年 10月21日 9:30~12:30 不登校・ひきこもりの理解と支援 講師: 榎屋 二郎 講師: 野村 昂樹
- 2017年 12月16日 9:30~12:30 被災・事故等によるトラウマ反応や喪失体験の理解と支援 講師: 高橋 紀子
- 2018年 1月26日 9:30~12:30 青少年のいじめ・自殺の現状と予防 講師: 内田 千代子
- 2018年 2月17日 9:30~12:30 子育てに悩む保護者支援:ペアレントプログラム 講師: 黒田 美保

参加費 無料

参加資格 子どもの支援に関わるすべての専門職種および教職員

定員 20名程度 (全回へ参加、なるべく多く参加した方優先します)

主催: 国立大学法人福島大学
子どものメンタルヘルス支援事業推進室
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地 FAX: 024-503-3414
http://cmhc.net.fukushima-u.ac.jp/
後援: 福島県教育委員会

コラッセふくしま (5階 研修室)

会場

コラッセふくしま

福島県福島市三河南町1番20号
JR福島駅より徒歩5分
※各回の場所に関しては、
中面をご確認ください。



福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催研修会 「子どものメンタルヘルス 支援の実践」研修会

子どものメンタルヘルス支援事業推進室の専任・兼任・客員のスタッフ総出による、各自の専門領域に関わる最新の知見に基づき、教職員など地域の支援者・専門家に向けた研修会です。受講者が参加しやすいように土曜日を中心に、一部金曜日に開催しますが、出来るだけ継続的に受講することを勧めます。

2017年 **7月1日** 9:30～12:30

家族への地域生活支援～非行臨床を中心に～

講師：生島 浩 (福島大学人間発達化学類 教授)
場所：コラッセふくしま5F研修室B

概要

不登校・非行などの問題行動、疾病や脅かしのある子どもを抱えた保護者に対する家族支援の基本についてお話しします。支援者の立場や役割に配慮しながら、家族の問題解決能力を高めるために、家族員個人の問題性に焦点を当てたのではなく、家族全体の持てる力・機能アップを図るシステムズ、アプローチの考え方と手法について学びます。地域社会における「立ち回り支援」の実践について、非行臨床をモデルとして修得することを目指します。

2017年 **8月26日** 9:30～12:30

子どもの心理教育

講師：中村 志寿佳・佐藤 則行 (福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室 特任助教)
場所：コラッセふくしま4F403

概要

子どもの支援を行う際には、何か問題が起こってから対応するだけでなく、子ども自身の心の回復力を高め、自分で対処するための方法を学習する予防的な働きかけも大切です。当室では、小学生から高校生までを対象に学校へ訪問し、ストレス・マネジメントやアサーショントレーニング、リラクゼーションなどを取り入れた「こころの授業」を行っています。本講義では、子どもの年齢やクラスの状態に合わせて心理教育プログラムをいくつか紹介し、参加者の皆さんに実際に体験してもらいながら理解できるように進めていきます。

2017年 **9月29日** 10:00～13:00

震災後の福島の子どもの理解と支援～自閉症スペクトラムを中心に～

講師：内山 登紀夫 (大正大学心理学部臨床心理学科 教授 / 福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室 客員教授)
川島 慶子 (福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室 研究員)

場所：コラッセふくしま4F403

概要

東日本大震災後6年が経過した現在、福島県の子どもはどのように変化し、どのような支援を必要としているのでしょうか。また、環境の変化に支援を必要とする自閉スペクトラム症の子どもの適応生活と本当に必要な支援とは、どのようなものだったのでしょうか。本講義は、震災直後から現在まで取り組んできた支援と研究を通して見えてきたことを踏まえ、福島県の子どもの①現状と課題、②発達特性を踏まえた支援の在り方を中心に構成されています。現場で支援活動に携わる専門家の方をはじめ、日頃、子どもと保護者に携わるお仕事をしている皆様にもわかりやすくお伝えします。

2017年 **10月21日** 9:30～12:30

不登校・ひきこもりの理解と支援

講師：榎屋 二郎 (東京医科大学茨城臨症センター精神科 科長 / 福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室 客員教授)
講師：野村 昂樹 (小野記念会福田病院 心士 / 福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室 客員研究員)

場所：コラッセふくしま3F302

概要

御承知のように福島県では東日本大震災後、不登校が明らかになって増えています。福島県の不登校の特徴の一つは高校生の不登校が多いことです。どの年齢層にもありますが、特に高校生の不登校支援では、適切なアセスメントを行って、その上で適切な支援をしないことと長期的な視点をもつことが重要です。また自殺との関連も大切な視点です。従って支援者は不登校支援を行う以上は正確な知識と判断力が求められますし、支援に必須の多職種連携を構築することも求められます。本セミナーでは、不登校・ひきこもりの基本的な知識を学び、東日本大震災後の福島的事情も踏まえた対応を学ぶ機会にしたいと考えています。

2017年 **12月16日** 9:30～12:30

被災・事故等によるトラウマ反応や喪失体験の理解と支援

講師：高橋 紀子 (福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室 特任准教授)

場所：コラッセふくしま5F研修室B

概要

いつ起こるかわからない災害や事故。だからこそ、日頃の備えが大切になります。心についてもそれは同じかもしれませんが。本研修では、突然の出来事が生じた際の子どもの心への影響や、発症に応じた喪失体験の受け止められ方、そして近くにいる大人の子どもへの適切な関わりについて学びます。また、被災・事故そして喪失体験は、その直後だけでなく、何年も経った後にふとした出来事がきっかけで蘇り、不安定になることもあります。本研修では、そうした中長期的な心の動きや対応についても学びます。

2018年 **1月26日** 9:30～12:30

青少年のいじめ・自殺の現状と予防

講師：内田 千代子 (福島大学人間発達化学類 教授)

場所：コラッセふくしま5F研修室B

概要

学校でのいじめを否にした10代の自殺の報道は後を絶たず、訴訟に発展したケースも少なくありません。学校問題をはじめとして家庭や社会環境の影響等、社会心理的な問題は自殺の大きな危険因子となります。自殺とうつ病などの精神疾患との関連も深く、震災、原発事故被害を受けた福島県は、その中でも特殊な状況下におり、自殺の危険因子を含めて考えるべきことが多くあります。いじめや自殺の現状をとらえた上で、プリベンションとして重要とされる予防教育の可能性についても触れたいと思っています。

2018年 **2月17日** 9:30～12:30

子育てに悩む保護者支援:ペアレントプログラム

講師：黒田 美保 (広島修道大学健康科学部 教授)

場所：コラッセふくしま5F研修室B

概要

子育ては楽しいことも多いのですが、たいへんなことも多いものです。子育てが「よつよといへん」と思っているお母様や、お子さんの発達がいまちょっと気がかりなお母様を対象に行われている親支援が、ペアレントプログラム、通称、ペアプロです。厚生労働省の推奨プログラムにもなっています。グループで実施しており、福島でも10か所以上で実施されています。本講義では、子育て支援に携わる、心理、保育、福祉などの専門家の方を対象に、ペアプロをすでに学ばれた方々には、復習と少しアドバンスな内容になるように、また、これから学びたいという方々には、概要が理解できるように構成しています。

支援者養成

4-1 ● 子どものメンタルヘルス支援の実践

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催

家族への地域生活支援： 非行臨床を中心に

開催日／2017年7月1日 場所／コラッセふくしま

講師／生島 浩

参加者／19名

参加者職業内訳(重複あり)

教諭3名、養護教諭3名、SC4名、心理士4名、保健師1名

SSW1名、OT2名、その他2名

参加者の声 ●●

- 家族面接のもっていき方。椅子を移動させることでその関係が大きく変わることに驚きました。
- 「きちんと対人関係でガタガタした経験をする事」対人関係経験交流不足から、自他の境界の区別のつかないことなどが増えてきているように思います。
- 家族療法のエッセンス、技法を学ぶことができてよかった。物理的に、視覚的に席を移動するという介入は使えそうなので参考にしてみます。
- きちんと悩むこと。回避・解決手段を学ばせる。あきらめるのではなく、致し方のないことを学ばせる。
- 居場所はあるが、居場所感がない。強迫性の強い子どもが増えた中で、普通でいいという感じが難しい。現実を直視して、致し方ないと思う、折り合いをつけるという点、今後学校で活かしていきたい。



支援者養成

4-1 子どものメンタルヘルス支援の実践

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催

子どもの心理教育

開催日／2017年8月26日 場所／コラッセふくしま

講師／中村志寿佳、佐藤則行

参加者／16人

参加者職業内訳(重複あり)

教諭6名、養護教諭2名、学校心理士1名(SCと複数回答)、SC3名、保育士1名

その他2名(実習教諭、OT)、記入なし1名

参加者の声 ●●

- 心理教育が必要とされる背景やめざすところ、アサーショントレーニング等具体的な進め方について大変分かりやすく理解できました。
- アサーショントレーニング心理教育の取り入れ方、種類、リラクゼーション法などが、大変参考になりました。保健室で子どもと接するときにも、実践していきたいと思いました。
- 現在受け持っている児童に適應できる内容がたくさんあったので実際にやってみたいと思います。ありがとうございました。
- 「考えのクセ」のワークがとても参考になった。考えの幅を広げることを自分自身も常に心掛け、子どもたちに接すること、子どもたちにも伝えることができるようにしたいとすっきりしました。
- 自己肯定感が低く、悪い方向へ考えがちな子どもが多いので、本日の講義で学んだトレーニング法を実践していきたいと思いました。実践的な内容が多くとても参考になりました。
- ストレスマネジメントやアサーショントレーニングの体験を通して受けて側に立った「気持ち」を共有できました。
- 具体的に佐藤先生やしずか先生が巡回でやられている心理教育授業をベースに、また認知行動療法にも入れていただいて、まさに気分(モード)→行動に働きかける体験型(重視した)心理教育を体験できました。



支援者養成

4-1 子どものメンタルヘルス支援の実践

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催 震災後の福島の子どもの理解と支援： 自閉症スペクトラムを中心に

開催日／2017年9月29日 場所／コラッセふくしま

講師／内山登紀夫、川島慶子、柄谷友香(名城大学)

参加者／20人

参加者職業内訳(重複あり)

教諭2名、養護教諭2名、保健師1名、心理士1名、SC4名、SW1名、SSW2名、保育士3名
指導員1名、OT3名、定年退職1名

参加者の声 ●●●

- 親子セットでの支援に関しては、自分も感じている事が多かったので、参考になりました。調査に関しても、被災した学年によって、経過が変わってくる事について、今後支援が必要である事が数値ではっきり示される事になるのであろうと思いました。震災エスノグラフィーについては知識がなかったので、大変興味深く参考になりました。
- 自分の居住地のデータが数字として示されると更にその現実味を捉え易く、現場における支援(保護者も含めて)の重要性を再確認致しました。又、社会調査の報告で本来の「再建」がいつになるのかとあらためて感じました。
- 自分が気づいていた点が、確認できた。長期に渡る支援に関わっていたからこそその内容で、自身にとってもこの期間のまとめと、納得できた。柄谷先生のエスノグラフィーに興味を持ったと同時に、震災後に生まれた子たちが、なぜこんなに落ち着きがない子が多いのかの解答を得たような気がした。
- 帰還に向けての課題は大きいと想像できるが、実際にはさらに大変だとわかった。親子セットでの支援が必要であるということを再認識させていただきました。暗黙知の重要性、なるほどと思いました。最終調査に加え、社会調査にも着手されることが、すばらしいと思いました。



支援者養成

4-1 子どものメンタルヘルス支援の実践

福島大学子どもメンタルヘルス支援事業推進室主催 不登校・ひきこもりの理解と支援

開催日／2017年10月21日 場所／コラッセふくしま

講師／梶屋二郎、野村昂樹

参加者／30人

参加者職業内訳(重複あり)

教諭7名、養護教諭6名、心理士3名、SC4名、SSW4名、保育士3名、指導員1名
作業療法士2名、相談員1名

参加者の声 ●●

- チーム支援の大切さを再認識できた。目の前の課題に対し背伸びをせず、将来を見通しチームで共通理解を図りながら現実的なサポートをしていきたい。
不登校と多職種支援。不適應の実相。不登校(ひきこもり)の背景(虐待を含む)etc
- 不登校の背景にある様々な要因が整理できた。学校はどうしても不登校の解消にのみ目が行きがちだが、アセスメントを適切に行ない、長期的な対応を考えていかなければならないと思った。アセスメントが大事と実感。見過ごし(見誤り)につながり、支援の方向が間違えてしまう。発達障害と虐待等々領域が重なってしまう。大事。多面的。
- 分かっているつもりで、ついつい焦ってしまうところ、ないがしろにしてしまうところがあり、身につまされる内容だった。自分の臨床を冷静に捉えなおしたいと感じた。
- 「不登校支援は家族支援」これは基本だといつも思っています。アセスメントをしっかり行ない、実践につなげて「正しい支援」を心がけていきたいと思います。
- ケース会議を学校で行うと、目標設定がどうしても「教育現場に子どもさんを戻す」ことに設定されて結果を求められますが、子どもの利益となる設定が大事。焦らさない！見守る休ませる。強い刺激は自殺に至る可能性もある事知りました。多職種連携が大切であるということがよく分かった。



支援者養成

4-1 子どものメンタルヘルス支援の実践

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催 被災・事故等によるトラウマ反応や 喪失体験の理解と支援

開催日／2017年12月16日 場所／コラッセふくしま

講師／高橋紀子

参加者／19人

参加者職業内訳(重複あり)

教諭 3名、養護教諭 2名、心理士 1名、SC 5名、SSW 2名、保育士 2名、指導員 1名

実習教諭 1名、看護師 1名、OT 2名

参加者の声 ●●●

- PTSD、トラウマの具体的な話を聞かせて頂いて、ありがたかった。
- 丁寧な説明や、支援する立場によってできること、知っておく程度にした方がいいこと、など、詳細なお話があり、現場で生かせる内容でした。
- 内容に入る前に先生の「今ここに」いらっしゃるプロセスを導入してお話して下さった事で、研修室がWSのような親密な空間に切り換わった事、自分のつたない学校での心理教育や集団へのアプローチの時に是非、参考にさせていただきたい。
- PTSDとひとくちに言うことが多いがいろいろな反応があること。対応の仕方と回復に向けての対応を具体的に聞くことができ、参考になった。
- トラウマ、PTSDを抱えた子供への関わり方、声のかけ方、子供の支援には支援者のストレスケアも大切であること等学ぶことができ、よかったです。
- 具体的で、先生のお声もやわらかく優しく、災害等のこわい体験をいやして頂きました。とにかく、ツライ体験をした中でも、力を合わせて生きて行く事。支援者が疲弊しないようチェックし合う事！今まさに疲れていたのがピッタリでした。
- 子どもには希望を伝えていくこと、伝えにくいことは絵本を活用することなど具体的な方法を教えていただいたことを活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。



支援者養成

4-1 子どものメンタルヘルス支援の実践

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催

青少年のいじめ・自殺の現状と予防

開催日／2018年1月26日 場所／コラッセふくしま

講師／内田千代子

参加者／8人 ※天候不良の為

参加者職業内訳(重複あり)

学校長1名、教諭1名、養護教諭2名、SC1名、保育士1名

作業療法士1名、相談員1名

参加者の声 ●●

- 予防のプログラムは、大変おもしろいと思います。学校課題とマッチすればぜひ取り組んでみたいと考えます。
- 自殺全体について。自殺予防について、参考になりました。
- 自殺者数が交通事故死者総数の6倍ということに驚いた。自殺をする青少年が少しでも減っていくように小さな頃から発達段階に応じた心の教育が必要だと思った。
- 自殺に関して、データのなこと(交通事故死の6倍など)予防や対応、考え方が参考になった。諸外国のとりくみや安全計画用紙も参考になった。
- 安全計画用紙などの話等、なかなか、お医者さんの話は聞くことができないので、大変良かったです。
- 内容を再度確認したいと思います。深く内容を伺いたいと思って来ているので、写すだけで時間が一杯になるのは、もったいなく思います。
- 自殺予防のための様々な取り組みについて学ぶことができました。
- 事前対応、予防教育、自殺の原因(危険因子)、スクリーニングアプローチ(自殺予防プログラム)



支援者養成

4-1 子どものメンタルヘルス支援の実践

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催

子育てに悩む保護者支援： ペアレント・プログラム

開催日／2018年2月17日 場所／コラッセふくしま

講師／黒田美保

参加者／19人

参加者職業内訳(重複あり)

教諭6名、養護教諭2名、実習教諭1名、SC5名、SSW2名

心理士2名、OT2名、保育士1名

参加者の声 ●●●

- 現状把握表の活用の仕方、勤務する学校で保護者との教育相談や支援に取り入れていきたいと考えております。
- 現状把握表でのワークで、困ったことや、努力していることも、良いところへ移行できること、考え方が変われば行動も変化することがよく理解できた。適応行動をたくさん見つける目を持ち、褒めていきたい。
- 良いところ、努力しているところの見つけ方。
- ペアプロがわかりやすく、実践したいと思います。
- ご著書で拝見していた黒田先生のコツとプログラムのコツをまさに講義の中で体験させていただけたことが、とても体験的でした。
- 実際のペアプロの具体的なやり方、ファシリテーターとして気をつけることなど。
- 継続することが大切だなと思った。書くことで子供達の新たな良い一面を残すことができるので、続けていきたい。やはり人間関係を円滑にするためには、相手のことを承認することが大切だと思った。
- 自分も周囲の方ができてやってくれて、当たり前ではなく感謝の気持ちやできていることを褒めること、伝えることの大切さ。そうすることが人とのコミュニケーションアップになることが再認識できました。



支援者養成

4-2 ● 学外講師招聘研修会

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催

外傷的育ちによる 生きづらさへの理解と支援

開催日／2017年11月22日(15:15~16:45) 場所／南相馬市 鹿島保健センター

講師／崔 炯仁(いわくら病院)

参加者／22名

参加者職業内訳(重複あり)

看護師5名、臨床心理士3名、生活支援相談員2名、サービス管理者2名
相談支援2名、保健師1名、作業療法士1名、精神保健福祉士1名
社会福祉士1名、相談員1名、相談支援専門員1名

参加者の声 ●●●

- 内容構成が面白く、そのやりとり、過程を聴講できたことは有意義でした。
- 支援のふりかえりができて良かった。
- 事例からメンタライジングへの対応まで考える過程は、私には難しいと感じました。ただステップ1を意識することは、日頃の支援にも活かせるかなと思いました。
- どこまで踏み込んで聞いていいか迷うこともあるが、色々な聞き方があることがロールプレイを通じて、本人のエンパワメントのために生かしていきたい。
- 問題点があっても、その理由がわからない事例であった。それを崔先生がわかりやすく関わり方や理解の仕方の話をされ、勉強になりました。「共有をして、まとめて焦点をあてていく」「耕すだけで育っていく」良い言葉をいただきました。
- 1つの投げ方を繰り返すという方法(ステップ1)が、とても重要なことがわかりました(看護師)。
- 模擬事例について、症例が単なるものではなく、関わりがあってこそアプローチできる部分の方向性など色々でてくるものがあり、感心する部分が多々ありました。
- 関わり方について、具体的な例をあげながらお話いただき、大変参考になりました。答えを探す聞き方、過去の問題を探してしまう聞き方にならないよう、今後心がけていきたいと思えます。ありがとうございました。
- よく見えてこない事例だが、先生の説明でふみこめる部分がありうまく関係づくりで支援したい。(今後の希望として)今回のように事例のワークショップができるといいです。
- こういう事例の人の支援にまだ関わった経験がないので、これから先の良いお手本にさせていただきます。
- 定期的に質問を授ける。トラウマになられた方を気をつける大事だと思いました。
- 個人々色々とおもうところがあったが自分たちの訪問の参考にしたいと思います。



支援者養成

4-2 学外講師招聘研修会

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催

自閉スペクトラム症を持つ児童思春期の 子どものためのスキーマ療法ワークショップ

開催日／2018年1月13日・14日 場所／コラッセふくしま

講師／大島 郁葉(千葉大学)

参加者／40人

参加者職業内訳(重複あり)

教諭5名、養護教諭5名、SC5名、心理士5名、SSW5名、その他5名

参加者の声 ●●

- 専門機関と連携したとしても、学校では対応が限界だと思う事例が増加している状況なので、少しでも勉強して初期対応の方向性があまりにも変な方向にいかないようにしたいと考えていた私にとって、とてもおおきなヒントとなる内容でした。
- 心配な生徒、およびその生徒の親について、整理して見るのが大事で、その整理の仕方を学びました。
- ASDをどう理解し合うか。そのための相談の際に、どんな心構えで望むのか。困り感の根底にあるものは何か。スキーマがどのような形でモードとして表出するのかなど。現場で子ども、親と向き合うときに、支えとなる理論になります。
- スキーマ療法というアプローチを知ったことは、何となく対応していくのではなく、一緒に考えていくのに冷静に前に進んでいくことの大切さに出会った感じです。
- 「脆弱なチャイルドモードをまずいたわる」ことは、学校で担任としてできそうだと感じた。
- ASDの理解や状況理解等から、困り感を話し合い、見通しを持てるよう(生きていく希望を持てるよう)していくことが必要だと思いました。アセスメントの視点がわかり勉強になりました。



福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催

自閉スペクトラム症を持つ 児童思春期の子どものための スキーマ療法ワークショップ



今回のワークショップでは、児童思春期の自閉スペクトラムの方に焦点を当てた形でのワークショップを行います。スキーマ療法の素養を身に着けることで、児童思春期の自閉スペクトラムの方への支援のヒントとなることを目的とします。

日時

2018年 1月 13日(土) 14日(日)
2日間 10:00~16:00

会場

コラッセふくしま 5階研修室
福島県福島市三河南町1番20号

参加資格

子ども支援に関わる全ての専門職種および教職員
*全日程参加可能な方のみ

定員

40名
(参加資格を満たす方のうち、先着順とします)

講師

大島 郁葉
(千葉大学子どもこころの発達教育研究センター)

参加費：無料
お茶菓子代：500円

この研修は、模擬事例やロールプレイ等実践的な内容も含まれることから、参加者のリフレッシュ用として暖かい飲み物やチョコレート等をご用意させていただきます。こうしたお茶菓子を大学予算からご用意することができないため、参加者の皆様より、お茶菓子代の実費相当額を集めさせていただきますと思います。



【主催】 国立大学法人 福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地 FAX 024-503-3414
URL <http://cmhc.net.fukushima-u.ac.jp>

【後援】 福島県教育委員会

スキーマ療法とは

スキーマ療法とは Jeffrey Young (1990) が開発した、主に慢性的な気質的、性格的問題の解決を目指す CBT をも内包した統合的な心理療法です。これまでスキーマ療法はパーソナリティ障害や PTSD、反復性鬱病などの様々な疾病や問題に対し、一定の効果が得られております。スキーマ療法では、生得的特徴や幼少期の体験により構成された過度に一般化した認知体系である「早期不適応的スキーマ」を変容させ、環境に対する過剰で不適応的な反応形態を変化させることを治療目的としています。

大島氏は 2010 年ごろから自閉スペクトラム症の治療にスキーマ療法を活用し始め、現在まで臨床研究を続けています。2014 年より国際スキーマ療法協会 (ISST) での継続的トレーニングも開始し、2016 年に国内で初めてアドバンスレベルのスキーマセラピストとしての資格を得ています。

福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室 客員教授 黒田 美保

講師紹介

大島 郁葉(おおしま ふみよ)先生

医学博士。臨床心理士。アドバンスレベル国際認定スキーマ療法士。千葉大学子どものこころの発達教育研究センター行動医科学部門特任助教。主な著書に『認知行動療法を身につけるーグループとセルフヘルプのための CBT トレーニングブック Challenge the CBT』金剛出版 (共著 2011)、『認知行動療法を提供する：クライアントとともに歩む実践家のためのガイドブック』金剛出版 (共著 2015)。

スキーマセラピーに関しては、2014 年から International certification training of schema therapy を受け、2016 年 6 月に advanced schema therapist 資格取得。現在、日本で唯一のアドバンスレベル国際認定スキーマ療法士の資格保持者。

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室宛

FAX 024-503-3414

自閉スペクトラム症を持つ児童思春期の子どものための スキーマ療法ワークショップ参加申込書

(ふりがな)			
お名前		所 属	
お電話番号	—	職 種	
メール アドレス			
ご住所	(〒 —)		

支援者養成

4-2 学外講師招聘研修会

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催 子ども達とその家族の レジリエンスを高めるBASIC-Ph

開催日／2018年1月28日 場所／福島テルサ

講師／新井陽子・岡田太陽・森脇正弘(BASIC Ph JAPAN)

参加者／15人

参加者職業内訳(重複あり)

教諭5名、養護教諭5名、SC5名、心理士5名、SSW5名、その他5名

参加者の声 ●●

- B.A.S.I.C.Ph6つの点からアセスメント、アプローチできると分かったこと。
- BASIC-Phについてワークを通して知ることができた。その中で自分のよく使うチャンネルについてわかった。人と接する(関わる)とき相手のチャンネルに合わせてるとよいこと。合っていないと関わりが困難になる。
- Bチャンネルの合わせ方は今後の業務でとても役立ちそうです。中級を受ける機会があれば是非受けてみます。
- 6つのチャンネルと自分の強みが分かりました。実演がわかりやすかったです。同じチャンネルで対応すること、その通りだと思えます。子どものため少しでも現場で役立てます。
- 様々なワークや6つのチャンネルが大変参考になりました。生徒対応に生かしていきたいと思えます。本日はありがとうございました。
- 同じチャンネルでまず接すること、そのためには自分のチャンネルを増やすこと。そのチャンネルを広げる力をつけることが大切だとわかりました。
- 日本語での中級の研修機会をまたぜひ、東京、福島で開催されるのを期待しています。
- このような貴重な研修を受けさせていただき、本当に感謝しています。ありがとうございます。また受講させていただきたいです。



子ども達とその家族のレジリエンスを高める BASIC-Ph

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室では、福島県等との連携により、メンタル面でリスクを抱える子ども達と家族に対して支援を行ってきました。学校へ巡回訪問等させていただき中で、東日本大震災と原発事故後の影響だけでなく、犯罪被害を含めたメンタル面でリスクを抱える子ども達と家族に対しての支援の必要性も実感しました。そこで、今回子どもの支援に関わるすべての専門職及び教職員の方々を対象に、子ども達や家族のストレスに対する強さ、レジリエンスを高めるアプローチとして、BASIC-Ph(ベーシック・ピーエイチ)と呼ばれるアプローチを紹介するワークショップを開催することになりました。学校教育場面等でお役に立ていただけると幸いです。

BASIC-Phとは、イスラエルで市民のストレスケアと予防に取り組んできた中で生まれた援助モデルです。人は危機に直面した時、様々な対処(コーピング)方法を用いており、それは、Belief(価値・信念)、Affect(感情・情動)、Social(社会的)、Imagination(想像)、Cognition(認知)、Physiology(身体)の6つのチャンネルに分類できます。BASIC-Phでは、子ども達や家族が主に用いる対処チャンネルを知り、それに合わせて援助を行うことで、子ども達や家族のレジリエンスを引き出す援助モデルです。

日時 **2018年1月28日(日)**
10:00~17:00 受付9:30~

場所 **福島テルサ 4F つきのわ**
福島県福島市上町4-25

参加資格 **子どもの支援に関わる
全ての専門職及び教職員**

参加費 **無料**(お茶菓子代 300円)

この研修は、ワークショップ形式で体験的実践的な内容も含まれます。そこで参加者のリフレッシュ用として飲み物やチョコレート等をご用意させていただきます。こうしたお茶菓子を大学予算からご用意することができないため、参加者の皆様より、お茶菓子代の実費相当額を集めさせていただきたいと思っております。

定員 **20名程度**
(参加資格を満たす方のうち、先着順とします)

講師 **新井 陽子**(BASIC-Ph JAPAN) ほか

主催 国立大学法人福島大学
子どものメンタルヘルス支援事業推進室
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
FAX **024-503-3414**
<http://cmhc.net.fukushima-u.ac.jp>
E-mail kodomo.mental.12@gmail.com

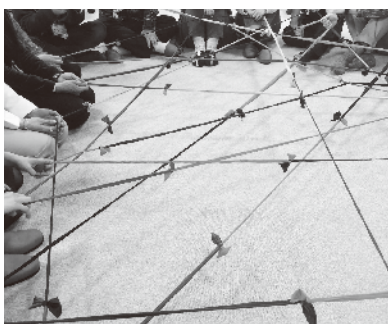
後援 **ふくしま被害者支援センター**





BASIC-Phとは

イスラエルで市民のストレスケアと予防に取り組んできた中で生まれた援助モデルです。人は危機に直面した時、様々な対処(コーピング)方法を用いており、それは、Belief(価値・信念)、Affect(感情・情動)、Social(社会的)、Imagination(想像)、Cognition(認知)、Physiology(身体)の6つのチャンネルに分類できます。BASIC-Phでは、子ども達や家族が主に用いる対処チャンネルを知り、それに合わせて援助を行うことで、子ども達や家族のレジリエンスを引き出す援助モデルです。



福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室宛

FAX 024-503-3414

E-mail kodomo.mental.12@gmail.com

子ども達とその家族のレジリエンスを高める BASIC-Ph参加申込書

(ふりがな)			
お名前		所 属	
お電話番号	—	職 種	
メール アドレス			
ご住所	(〒 -)		

支援者養成

4-2 学外講師招聘研修会

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室主催

LEGO® SERIOUS PLAY®メソッドを用いて「関わり手が大切にしていること・価値観」から児童や学生達のメンタルヘルス支援を考える

開催日／2018年1月29日 場所／南相馬市原町保健センター

講師／小笠原祐司(山梨学院大学)

参加者／12人

参加者職業内訳(重複あり)

教諭1名、心理士1名、SW1名、SSW1名、保育士2名

その他6名(NS2名、実習教諭1名、無記入3名)

参加者の声 ●●

- 頭から入らず、作業から入って思考を整理するプロセスは、頭でっかちで思考がかたくなっている時にすごく役立つと感じた。安全な自己表現での価値観の表明、共有はとても良いと思いました。
- 意識していなくても、自分の気持ちが表れていたり、人に言われて気づくことがあったり、発見がありました。意見が違うように見えて、つながって、ストーリーができることが面白いと思いました。
- これからの支援に役立てていきたい。レゴの作品を見て、作ったレゴを通して、自分の考えを意味付けして言えることがよかったし、相手の考えを理解できていくのがよくわかった。説明していく中で、自分の考えがまとまったり深まったりしていくこともわかりました。短い時間ですがそれを体験できました。
- 型にはまらない価値観を体験できた。どんな形もOKという点は気分的に楽。でも自分の考えや意見を聞かれると戸惑う自分もいたと感じた。
- レゴを使うことで緊張がとれて、作品を作ることで自分で意味付けでき、面白く研修できました。周りの人にも気軽に声をかけあうことができました。
- ブロックを通じて無意識を表出できることが勉強になった。



LEGO® SERIOUS PLAY®メソッドを用いて

「関わり手が大切にしていること・価値観」から 児童や学生達のメンタルヘルス支援を考える

児童・学生達を学校教育や地域で見守り関わる上で、関わり手側が自分のあり様を自覚し、地域の関わり手への相互理解を深めることは大切になります。

そこで今回は、レゴシリアスプレイメソッドを用いて、私たち関わり手が児童・学生と関わる上で大切にしていることや自身の価値観を振り返り、これからの支援を考える場を設けることになりました。

困ったことが起こった時、私たちは論理を尽くした議論を優先しがちです。レゴシリアスプレイメソッドでは、各人の感性で考え直し、感性で捉えたことをまた論理で考えてみる、この相互作用が問題解決を効果的に促進するという考えを基に構成されます。遊びと学びの融合の中に、問題解決のプロセスを巧みにおり交ぜた、「新しい学びの道具」レゴシリアスプレイメソッドでは、大人でも子供でも、世代や上下関係を超えて、参加できるのが特徴です。

日時 **2018年1月29日(月)**
14:30～17:00

場所 **南相馬市保健センター2階
会議室** 福島県南相馬市原町区小川町322-1

参加資格 児童・学生の支援に関わる専門職および教職員

参加費 **無料**

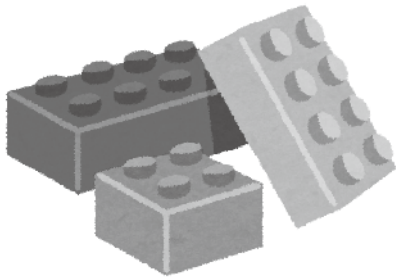
定員 **20名程度**
(参加資格を満たす方のうち、先着順とします)

講師 **小笠原祐司**(山梨学院大学)

主催 国立大学法人福島大学
子どものメンタルヘルス支援事業推進室
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
FAX **024-503-3414**
<http://cmhc.net.fukushima-u.ac.jp>
E-mail kodomo.mental.12@gmail.com



LEGO® SERIOUS PLAY®メソッド



レゴシリアスプレイメソッドでは、各人の感性で考え直し、感性で捉えたことをまた論理で考えてみる、この相互作用が問題解決を効果的に促進するという考えを基に構成されます。遊びと学びの融合の中に、問題解決のプロセスを巧みにおり交ぜた、「新しい学びの道具」レゴシリアスプレイメソッドでは、大人でも子供でも、世代や上下関係を超えて、参加できるのが特徴です。

LEGO® SERIOUS PLAY®の典型的な進め方

STEP 1



グループに対して何か問題設定をします。

STEP 2



メンバー全体が手を動かして、作品を創ります。

STEP 3



各作品から生まれる物語を発表しグループで共有します。

STEP 4



そこから内観が共有される事につながっていきます。

福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室宛

FAX 024-503-3414

E-mail kodomo.mental.12@gmail.com

LEGO® SERIOUS PLAY®メソッドを用いて

**「関わり手が大切にしていること・価値観」から
児童や学生達のメンタルヘルス支援を考える 参加申込書**

(ふりがな)			
お名前		所属	
お電話番号	—	職種	
メールアドレス			
ご住所	(〒 -)		

平成29年 相馬支援学校特別支援教育セミナー
ゲートキーパー研修会：
悩んでる人、困っている人に
気づき、支援につなげるために

開催日／2017年7月27日 場所／相馬市総合福祉センター はまなす館

講師／佐藤則行

参加者／29人

参加者職業内訳(重複あり)

福祉：4名 保育園：2名 小、中、高等学校教員：8名 特別支援学校：15名

参加者の声 ●●●

- 日常の執務において、生徒の悩みにふれることが多く、ゲートキーパーについてもわずかな知識はあったが、実践的なスキルを身に付けたいと思い参加した。今回のお話を踏まえ、広い視野をもって現場に活かしたいと思った。
- 今回のゲートキーパー研修会は、とてもよかった。自分たちがどのようにかかわっていくのか、大切なことを教えてもらった。
- 様々なポイントを聞くことができ、子ども達の様子を見てみようと思った。
- あまり聞く機会がない内容のお話をきくことができ、とてもよかった。分科会の20名程度ではなく、全体会の講演で是非また聞きたい。
- 傾聴のポイントとして、ゲーム形式で体験できたのは、とてもわかりやすく楽しかった。共通の物差しの使い方が無意識ではできないために、普段の生活でも共通の物差しを使用して会話をしたいと感じた。
- ゲートキーパー研修会での、4つのポイント(気づき、傾聴、つなぎ、見守り)の丁寧なお話、大変参考になった。
- 質疑応答の時間が長く、よかった。
- ゲートキーパーという言葉は初めて耳にした。「自殺」という問題を、より身近に感じ、何かに思い悩んでいる人がいたら、今回の内容を基に協力できる人になりたいと思った。
- ゲートキーパーについて、大変興味があったので、勉強できて本当によかった。自殺を防ぐため、何か助けになればと思った。講師の先生の話は、ゲームを取り入れるなどわかりやすかった。
- ゲートキーパーという名称は研修で知ることができ、今回とてもよい話を聞くことができよかった。このような話は、みんなで聞くことが大事なので、次回も専門家からの話が聞きたい。
- 傾聴についてなど、とても勉強になった。ゲートキーパーが広まるよう、早速家族に話をしたいと思った。
- 母としても、家族に対しての傾聴の仕方が勉強になった。仕事でも大切にしていきたいと思う。具体的な事例を聞くことができたり、声の掛け方を知ることができたりして、よかった。
- 今回聞いた話で同じような症状が見られる方への対応や接し方についてとても勉強になった。自分自身にも思いあたるところもあり、気を付けていこうと思った。
- うつ病について正しく知ることができて、よかった。人ごとではないと思った。
- ゲートキーパーという言葉は初めて聞いた。今日学んだことを身近な人に話して、広げていきたいと思った。
- 大変よかった。充実した研修となった。

支援者養成

4-3 地域研修会

南相馬市職場内研修

心の悩みや不安を抱えている方への対応について

開催日／2017年8月21日 場所／南相馬市原町保健センター

講師／高橋紀子

参加者／南相馬市職員 24人

参加者職業内訳

保健師15名

その他9名(行政職、看護師、事務員、公務員、事務職、地方公務員、記入なし2名)

参加者の声 ●●

- うつや、元気がない人が増えている中で、具体的なサインや対応を教えていただいたので、とても参考になりました。ありがとうございました。
- 過労のあまり自殺する人の報道を目にして、なぜ死ぬ前に会社を辞めないのかと疑問に思っていたが、過酷な日常ですり減っていくことより、健常者に見える選択肢も見えなくなっていると思った。
- 自殺念慮のある人の思いや気持ちを引き出すこと、理解することは、思った以上に難しい。そのため、その人がどのような思考の状態になりやすいのか、症状等も学ぶことができた。また、それをキャッチしどのように言葉をかけてあげるべきか参考になった。
- 丸暗記だった知識に深みをもてました。
- 職場への復職の方法、本人(自殺願望のある人への)に対する対応のしかた
- 短時間で大切なポイントをたくさん伝えていただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 同僚、上司の立場での関わりなど、具体的に聞けてとても勉強になりました。
- 具体的なお話がきけて、今後の参考になりました。(自殺リスクの徴候や声のかけかた等)また機会があれば、ぜひお話伺いたいです。
- 具体例を交えての内容だったので、わかりやすかった。声かけや支援のヒントになりました。

指導員研修会

子どものアセスメント

開催日／①第1回:2017年10月2日 ②第2回:2018年3月13日

場所／ジュニアサポート「かのん」(南相馬市原町区栄町)

講師／川島慶子

参加者／①25人 ②22人

参加者職業内訳(重複あり)

教諭1名、保健師1名、保育士9名

指導員15名、その他1名

参加者の声 ●●

- アセスメントに種類があり、発達特性を発達全般の両方から見ていくことが大事であることが改めてわかりました。年齢にかかわらず、発達をみる必要があるを以前より感じております。沢山のことを身につけることができないので、まずはVineland II とWISC (WAIS) を当院のCPさんに相談しながらやっていきたいと思えます。
- アセスメントの重要性。今回検査方法が知れて良かった。
- マニュアルに目を通すことにためらいを感じていたのですが、本日先生のおはなしを聞き、少し接しやすくなったかな(?)と思えます。
- バインラントのアセスメント方法、保護者への質問の仕方など例を挙げて説明してくださり分かりやすかったです。また、アセスメントを取る上で内容理解をきちんとしないといけないなど感じました。
- 今後、Vinelandに関わる機会が増えていくと思うので、基礎知識をわかりやすく学べる事が出来て良かった。
- バインラントについてどのような目的で実施されるものなのか知ることができた。
- 検査内容についてももう少し理解したいと思えました。領域と下位領域については、"Vineland"のみならず日常の支援の中で、お子さんの観察の手がかりにしていきたいと思えました。
- より具体的な事例もまじえての説明をいただき、分かり易かったです。しかし項目内容の熟知がないとカテゴリーとしての質問ができない、つまり勉強しないと実施できないと理解しました。
- 幅広い対象者への検査の進め方、パフォーマンスを引き出すための環境調整等、勉強になりました。

支援者養成

4-3 地域研修会

相馬支援学校 親子学級講演

ペアレントプログラム

開催日／2017年11月9日

講師／佐藤則行

参加者／6人

参加者職業内訳

教諭1名、保護者5名

参加者の声 ●●

- 自分の(子どもの)良さや努力している点は、当たり前ではないことを改めて知ることができた。普段から、自分自身へのハードルを上げていることも思い知った。仕事ではできていても、子育てではできておらず、これから先、今日の講義内容を生かしていきたい。
- ほめると叱責のグラフは、そうなのかと思いました。年をかさねても、ほめるを忘れないように子育てしたいと思いました。
- 良いところをみつけてほめる事が大切で、その子を伸ばすために必要である事だと強く感じました。自分自身の良いところを見つける事は正直むずかしかったのですが、みんなに聞いていただいて、文字に書いてみて、良いところとして自信が持てました。
- 注意が向けられている行動は増える。
- ほめるということを今年、特に耳にすることが多く、意識するようにはしていたのですが、難しいです。今日のお話も参考にさせていただいて、ほめるをやっていきたいです。
- 1時間半弱という時間でしたが、とても短く感じました。とても良い勉強ができ、とても楽しい時間でした。
- みんなではなし合いもあり楽しく参加できました。

支援者養成

4-3 地域研修会

保育士部会学習会

開催日／2017年9月2日 場所／南相馬市鹿島区かしま交流センター

講師／中村志寿佳

参加者／44人

参加者職業内訳

保育士

概要 ●●

相双地区の保育園のうち、事例提供の希望があった7事例を取り上げ、対応の仕方を助言・検討した。

発達心理研修会

開催日／2017年12月7日 場所／郡山市立児童発達支援センター希望ヶ丘学園

講師／川島慶子

5

調査研究活動

5-1 ● 東日本大震災後に誕生した子どもと その家族への縦断的支援研究

概要 ●●

岩手・宮城・福島 の 3 県において、約12年にわたり、子ども本人、その家族、保育園の先生を含む養育者に対する多面的支援を実施し、治療的介入効果を検証する、学際的長期縦断追跡介入研究。

会議 ●●

2017/8/7 Skype …… 梶屋 二郎・中村志寿佳・佐藤 則行・川島 慶子・野村 昂樹
2017/11/17 福島大学 …… 梶屋 二郎・中村志寿佳・佐藤 則行・川島 慶子

調査 ●●

2017/4/13 …… 中村志寿佳・川島 慶子
2017/4/20 …… 梶屋 二郎・中村志寿佳
2017/9/2 …… 梶屋 二郎・佐藤 則行・川島 慶子・野村 昂樹
2017/9/9 …… 梶屋 二郎・中村志寿佳
2017/11/25 …… 梶屋 二郎・中村志寿佳・佐藤 則行・川島 慶子
2017/12/2 …… 梶屋 二郎・中村志寿佳・野村 昂樹
2017/12/14 …… 梶屋 二郎・中村志寿佳
2017/12/21 …… 梶屋 二郎・川島 慶子
2018/2/3 …… 梶屋 二郎・川島 慶子
2018/2/10 …… 梶屋 二郎・中村志寿佳・佐藤 則行
2018/2/24 …… 中村志寿佳・佐藤 則行・野村 昂樹
2018/3/3 …… 梶屋 二郎・川島 慶子
2018/3/20 …… 佐藤 則行
2018/3/26 …… 中村志寿佳・佐藤 則行

調査研究活動

5-2 ● 福島におけるペアレント・プログラムの実践

概要 ● ●

平成29年度に実施される福島県のペアレント・プログラム事業及び福島県内の事業所により独自に行なわれるペアレント・プログラムを対象に、参加者の効果について、抑うつ状態及び養育スタイルの変化の観点から検討。

調査 ● ●

県内で実施された9ヶ所のペアレント・プログラムの、初回、最終回、フォローアップにて質問紙調査を実施。

調査実施者 ● ●

高橋 紀子・中村志寿佳・佐藤 則行・川島 慶子

調査研究活動

5-3 ● 児童思春期の高機能自閉スペクトラム症者および家族に対する認知行動療法を用いた心理教育プログラム「ASDに気づいてケアするプログラム(Aware and Care for my AS Traits;ACAT)」の開発と効果についての検証

目的／概要 ●●

本研究の目的は、児童思春期のASD患者に対し、通常診療(TAU)に認知行動療法を用いた心理教育を併用(COMB)することが、TAU単独と比較して有効(ASDに対する理解や気づきが向上するか)であるか、ランダム化比較試験(RCT)により検証することである。主要評価項目は子ども若者版Autism Knowledge Quiz(AKQ-C)を用いて、各群のベースラインから6週時点でのエンドポイントにおける変化量を比較する。また、副次評価項目として、社会適応尺度による社会適応の変化や、スティグマ尺度による治療スティグマの軽減率評価も行なう。

本試験の遂行により、ASDを有する患者のうち、診断後の通常治療では十分なASDの特性理解や気づきが得られないものに本プログラムを実施することの効果・意義が検証され、エビデンスに基づく新たな治療戦略の確立および普及が推進されるものと考えられる。さらには、ASDを有する患者が、より適切な治療を受けることが可能となることで、職業上および社会機能を早期に回復でき、本邦の保健・医療サービスの向上に寄与するものと考えられる。

会議 ●●

- 2017/12/18 Skype …………… 高橋 紀子
- 2018/1/12 福島大学 …………… 高橋 紀子・中村志寿佳・佐藤 則行
- 2018/2/9 千葉大学 …………… 高橋 紀子
- 2018/2/28 ZOOM …………… 高橋 紀子

進捗 ●●

- 2018/2/19 千葉大学臨床試験審査 承認
- 2018/3/22 福島大学研究倫理委員会 承認

今後の予定 ●●

- 2018年4月 調査協力者リクルート開始予定

連合小児発達学研究科(千葉大学・大阪大学・浜松医科大学)・福島大学における
臨床研究プロジェクト

エイ・キャット

ASDに気づいてケアするプログラム：ACAT

Aware and Care for my AS Traits プログラム

2018年4月より募集開始

定員 **10名程度**

参加費 **無料**

今回、ASDに関係する心理検査も無料で実施します。心理検査は、ADI-R、ADOS-2、Vinland-2、WAIS/WISC、SP感覚プロフィール、ADHD-RS等を行います。



ACATって？

ACATとは、自閉スペクトラム症(ASD)を持つお子さんの親子参加式での心理教育プログラムです。自分のASDの特徴をよく知って、「うまく付き合える」ようになると、生活がスムーズになることが分かっています。ACATでは、認知

行動療法を使って、自分のASDをよく理解することでどんな効果があるのかを調べます。

認知行動療法って何？

認知行動療法とは、自分の「考え」や「行動」を変えることでストレス対処力をつける心理療法です。

このような方にご参加いただけます

(細かい規定がありますので、詳細はお問合せください)

- ・自閉スペクトラム症(高機能)との診断があり、定期的に通院をしている10歳から17歳までの方と保護者
- ・保護者の方も一緒に、週1回100分、全6回のプログラムに参加できる方

参加申込するとどうなるの？

このプログラムは、「無作為臨床試験」というかたちを取ります。参加申し込みした方の半分は、これまでの定期的な通院等にプラスしてACATに参加します。

残りの半分は、このプログラム期間は、これまで通りの通院等のみを続け、プログラム終了後に、推進室として行うACATに参加します。

申込先・問合せ先 福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室 (担当：高橋紀子)

MAIL kodomo.mental.12@gmail.com

FAX 024-503-3414

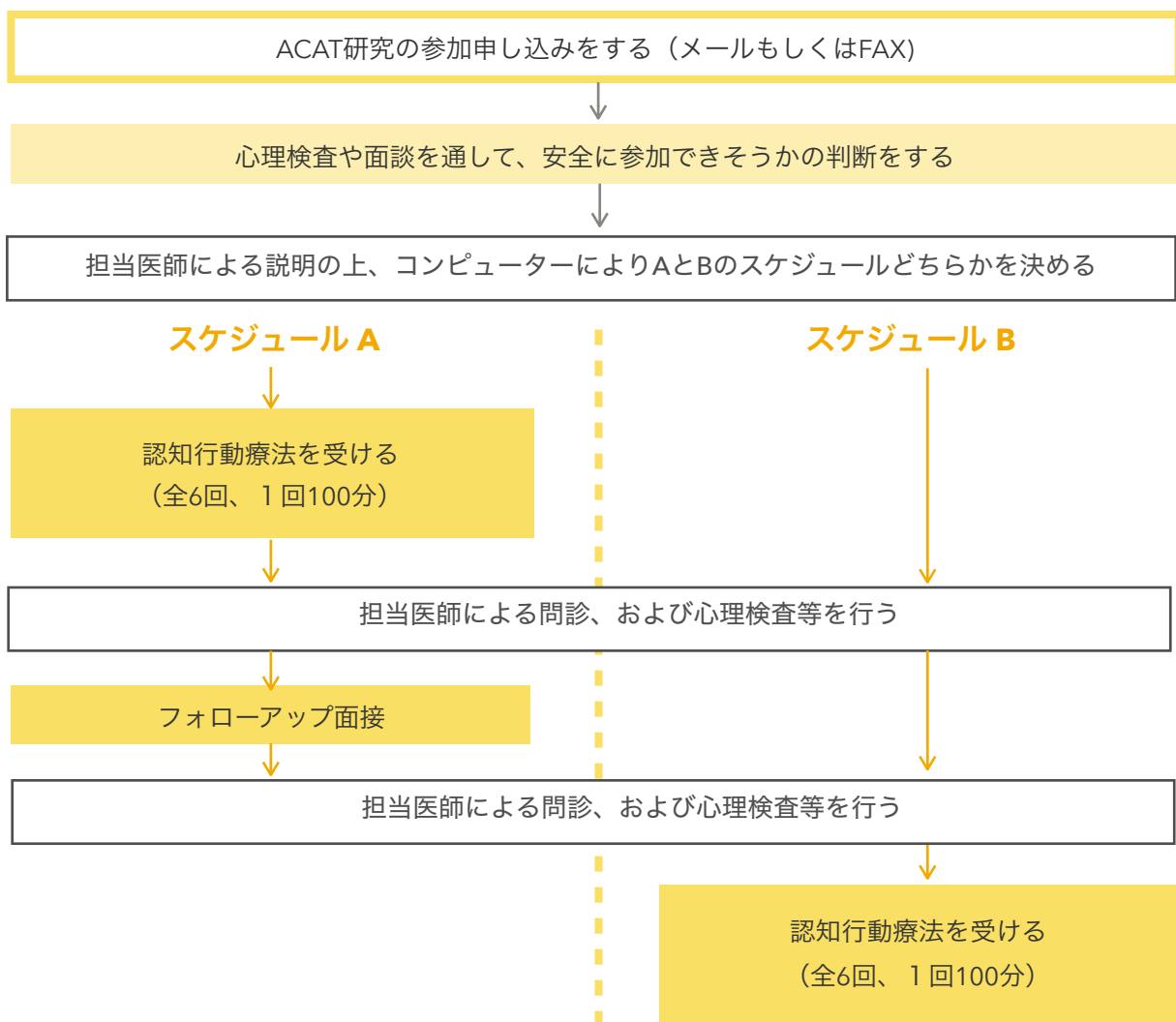
自閉スペクトラム症に気づいてケアするプログラム:ACAT研究の流れについて

この研究では、自閉スペクトラム症(ASD)をもつ方だけを対象としています（他の病気を一緒にもっていても大丈夫です）。プログラムを始める時に、このプログラムが症状に合っているか、また安全に参加してもらえそうかを判断するために、何回か面接を受けてもらいます。この研究に参加すると決めていただいた後、これまでの生活や治療について教えていただき、いくつかの心理検査を受けてもらいます。これらの情報を総合し、安全に参加できそうかを調べさせていただきます。プログラムが合わない判断した場合、この研究への参加をお断りさせていただきます。

研究に参加することになった場合は、スケジュールAとスケジュールBのどちらのスケジュールで進めるかをコンピューターでランダムに決定します。これは、担当者にも分からないシステムになっていて、みなさんが選ぶこともできません。下記のどちらになるかの確率は、それぞれ50%ずつとなります。

認知行動療法は、週1回(原則同じ曜日)に1回100分です。途中休憩が入ります。6回、毎週連続で、あなたと保護者ひとりと推進室担当者と、認知行動療法を受けていただきます。

6回の認知行動療法が終わってから、有効性・安全性の評価を行います。そして6回の認知行動療法終了から4週後にフォローアップ面接があります。その時にも、効果と安全性の評価をします。



調査研究活動

5-4 ● 学校における発達の違いや遅れのある子どもに関する調査 (南相馬市 他)

概要 ● ●

学校における発達の違いや遅れのある子どもの現状について調査を行う。

調査実施者 ● ●

内山登紀夫・川島 慶子

5-5 ● 福島県における震災後の発達障害の子どもの支援に関する研究

概要 ● ●

福島県における震災後の発達障害の子どもに対する支援について検討する。

調査実施者 ● ●

内山登紀夫・川島 慶子

5-6 ● 原発事故による帰還地域の現状をふまえた自殺予防教育の教材開発

概要 ● ●

帰還地域の現状を踏まえた自殺予防教育の教材として、(1)模擬事例によるロールプレイ実習用のDVD、および(2)教材リーフレットの開発。

調査実施者 ● ●

高橋 紀子・伏見 香代(相双広域こころのケアセンターなごみ)

宮川 明美(福島県立医科大学災害医療支援講座)

調査研究活動

5-7 ● ワシントンDCおよびボストン市における、被災者支援の一環としてのハイリスクな青少年の立ち直り支援に関する実地調査

概要 ●●

ワシントンDCにおける被災者支援の一環としてのハイリスクな青少年の立ち直り支援に関する実地調査として、その立ち直り支援に携わる専門機関を訪問し、実施調査を行なうと共に、来年度に福島で予定されている米国学生による被災者支援に関する調査の打合せを行なう。

同様の主旨で、ボストンにおいて非行少女の収容施設および加害者家族のための支援機関を訪問し、プログラムの実地調査を行なう。

これらの実地調査を通して、非被災者支援の一環としてのハイリスクな青少年の立ち直り支援およびその家族支援の最新の知見を得るとともに、米国学生による第三者評価も取り入れ、福島県の子どものメンタルヘルス支援における有益な支援方法を実証する。

〈訪問機関〉

ワシントンDC(2018年3月11日～3月14日)

- ・George Mason大学社会福祉学部の井上恵准教授と来年度の調査に関する打合せ
- ・Fairfax Kinship Institute
- ・Northern Virginia 地域「Gang Task Force」(Arlington、VA州)、
ハイリスクな青少年の立ち直り支援機関
- ・Fairfax 郡「Juvenile Court Services (少年裁判所)」(Fairfax、VA州)
- ・Northern Virginia Family Services、Intervention、Prevention and Education Services for Youth (Oakton、VA州)、家族支援機関：若者のための介入・予防・教育機関

ボストン(2018年3月15日～3月17日)

- ・LDB Peace Institute (Boston、MA州)、加害者家族のための支援機関
- ・Families for Justice as Healing (Jamaica Plain、MA州)、加害者家族支援プログラム

調査実施者 ●●

生島 浩・中村志寿佳

調査研究活動

5-8 ● 研究業績

論文 ● ●

1. 及川祐一・前田正治・高橋紀子・柏崎佑哉・上田由桂・久田満・中山祥子・増子博文・矢部博興・安村誠司 2017 東日本大震災における若年被災者をもつ親への電話支援について、トラウマティック・ストレス、15(1)、69-75.
2. 伏見香代・高橋紀子 2017 東日本大震災・原発事故後の男性独居高齢者の孤立予防、保健師ジャーナル、73(5)、401-406.
3. 野島一彦・下田節夫・岡村達也・高橋紀子・吉村麻奈美 2017 “個人臨床”と“グループ臨床”について語り合う 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要、4、45-61.

学会発表 ● ●

1. Noriko Takahashi, Shizuka Nakamura, Sato Noriyuki and Kawashima Keiko 2017 How the Child Mental Health Problems at Schools Emerged after 4 to 5 Years from the Great East Japan Earthquake Accompanied by the Nuclear Power Station Accident, Exploring Leadership and Learning Theories in Asia, Bangkok Paper
2. 高橋紀子・野村昂樹・中村志寿佳・川島慶子・佐藤則行 2017 被災地における中長期的なメンタルヘルス支援:地域の支援者との関係構築を焦点に、日本コミュニティ心理学会第20回記念大会、於:上智大学
3. 高橋紀子・中村志寿佳・川島慶子・佐藤則行 2017 福島県におけるペアレント・プログラムの実践、日本子どもの虐待防止学会第23回学術大会ちば大会、於:幕張メッセ国際会議場(ポスター発表)
4. 高橋紀子・川島慶子 2017 福島県における学校巡回相談の実践、第16回日本トラウマティックストレス学会、於:武蔵野大学(ポスター発表)
5. Takahashi Noriko 2017 Suicide Prevention Education for Returnees to the Areas Where Evacuation Orders due to the Nuclear Power Station Accident were Lifted、European Society for Trauma & Dissociation Poster
6. 高橋紀子・板東充彦・飯嶋秀治 2017 近年のコミュニティ研究の動向とコミュニティ・ソーシャル・アプローチの展望、日本心理学会第81回大会、於:久留米大学(ポスター発表)
7. 高橋紀子 2017 小学校、中学校、高校における心の教育プログラムの意義:感想アンケートからの検討、日本学校心理学会第19回つくば大会、於:筑波大学筑波キャンパス春日地区(ポスター発表)
8. 高橋紀子 2017 原発事故による避難区域および帰還地域における「共生」、日本人間性心理学会第36回大会、於:東海学園大学(ポスター発表)
9. 高橋紀子 2017 被災地の中長期的支援としてのペアレント・プログラムによる子育て支援、第58回日本心身医学会総会、於:札幌コンベンションセンター(ポスター発表)
10. 伏見香代・高橋紀子・米倉一磨・大川貴子 2017 被災地における地域再構築の一助としてのサロン運営支援、第16回日本トラウマティックストレス学会、於:武蔵野大学(ポスター発表)
11. 飯嶋秀治・高橋紀子・板東充彦 2017 コミュニティ論と臨床的アプローチの系譜、日本人間性心理学会第36回大会、於:東海学園大学(ポスター発表)

12. 板東充彦・飯嶋秀治・高橋紀子 201 コミュニティ・ソーシャル・アプローチの展望、日本人間性心理学会第36回大会、於:東海学園大学(ポスター発表)
13. 西澤奈穂子・川村玲香・小松陽子・高橋紀子・伊藤晶子・初田美紀子・坂本奈美・柿原愛子 2017 不適切対応に対する「ACTすこやか子育て講座」の効果 日本子どもの虐待防止学会第23回学術大会ちば大会 於:幕張メッセ国際会議場
14. 柿原愛子・西澤奈穂子・川村玲香・小松陽子・高橋紀子・伊藤晶子・初田美紀子・坂本奈美 2017 震災から6年、今子育て中の親に必要なものとは:ACTすこやか子育て講座を通じて親としての気づき 日本子どもの虐待防止学会第23回学術大会ちば大会 於:幕張メッセ国際会議場
15. 佐藤則行・佐藤早織・佐藤雅枝・山本佳子 2017 学生相談を支える談話室の役割についての一考察 - 3大学の実践比較(2)国立総合B大学の「談話室」において -、日本心理臨床学会第36回大会、於:パシフィコ横浜
16. 石井千賀子・生島浩・黒川雅代子・瀬藤乃理子・中村志寿佳・吉野淳一 2017 震災・喪失:家族療法の視点から福島のないまな喪失を考える 日本家族研究・家族療法学会第34回 於:つくば国際会議場